



地域調査の方法

真のニーズに応えるプロジェクト実施のために



目次

はじめに	2
調査の種類	
フォーラム (住民会合)	5
地域リソース調査	8
アンケート調査	10
インタビュー調査	13
フォーカスグループ (座談会)	15
マッピング調査	18
プロジェクトに含めるべき関係者 (重点分野別)	20

はじめに

効果的な奉仕プロジェクトの第一歩は、地域調査です。地域調査は、地域社会の実情を理解するための重要なプロセスとなります。

調査を通じて、最も重要なニーズを知り、クラブと地域社会のリソースを最大限に活かせるだけでなく、地元住民との信頼関係を築き、その積極的参加を引き出すことができます。地域の人びとに「自分たちが主体となって活動している」という意識が生まれれば、プロジェクト終了後も恩恵が末永く続いていくでしょう。

本手引きでは、地域調査の方法とヒントを紹介しています。信頼関係を築くには長い年月がかかります。その信頼関係を築き、充実したプロジェクトを実現するためにも、調査を行うことが重要です。

数人の地元関係者と話すだけでは、地域社会の真のニーズを理解することはできません。活動の恩恵を受ける人やさまざまな関係者に協力してもらい、しっかりとした調査を行いましょう。

調査にあたっては、地元関係者にロータリーと提携することの恩恵を理解してもらい、地元関係者からの貢献も必要であることを伝えましょう。

何から始めればよいのか 分からない場合：

ロータリー地域社会共同隊（RCC）を結成することを検討しましょう。ロータリークラブ会員ではない地元住民から成るグループで、地域社会の発展のためにロータリークラブと協力して奉仕活動を実施します。RCCのスポンサーになることは、奉仕をする真のパートナーとして地元住民を迎え入れるよい方法です。詳しくはこちらから rotary.org/ja/our-programs/rotary-community-corps。

調査の種類

地域調査には6つの方法があります。2つ以上の方法を組み合わせたり、地域やクラブの実情に合わせて応用したりすることも可能です。

- ▶ フォーラム (住民会合)
- ▶ 地域リソース調査
- ▶ アンケート調査
- ▶ インタビュー調査
- ▶ フォーカスグループ (座談会)
- ▶ マッピング調査

方法が決まったら、地域に関するデータを探します。地方政府または国の政府は、最近有益で信頼性のあるデータを発表しましたか。その他の団体や機関は地域の研究をしていませんか。公式統計データにかい離があり、正式な予備調査をして対応をする必要はありませんか。これらの質問に答えるため、クラブや地区の専門家と協力しましょう。

地域調査の基本

- **偏見は禁物**: 地域社会を理解することは簡単ではありません。偏った情報や憶測は地域社会の真のニーズを理解する上での妨げとなります。
- **さまざまな人からの協力**: 地元地域の人口の構成を分析し、多様なグループから協力者を募りましょう (性別、年齢、収入、職業など)。
- **過小評価されているグループへの配慮**: 女性、若者、高齢者などは、しばしば過小評価される傾向があります。これらのグループが安心して意見を述べることのできる機会を設けましょう。
- **自分が外部者であることを自覚**: 自分の住む地域以外または海外でプロジェクトを実施する場合、小さな町や村であっても、その地域に詳しい人や団体とつながりを築いてから地元関係者と連絡を取るべきです。
- **決定前の約束はしない**: クラブでの決定後に正式な連絡が行われることを関係者に伝えた上で、事前に協力をお願いしましょう。
- **関係者にも権限を与える**: 対等な関係で話をし、関係者に地元の取り組みの主体であるという意識を持ってもらいましょう。

グローバル補助金を申請する場合、実施する地域社会調査が、以下の基準を満たしている必要があります。

- 地域社会を公平に代表する関係者のグループを2つ以上含めている
- 規定の方法で実施している
- インフラの調査のみに留まらない調査を実施している
- 地域社会の現状 (リソースやニーズなど) を記載している
- プロジェクトと地域社会調査のつながりを説明している

「地域社会調査の結果フォーム」を申請書に添付することもできます。プロジェクトを活性化するヒントについては、「グローバル補助金ガイド」をご覧ください。

プロジェクトを最初から活性化するには、地区の国際奉仕委員長に連絡して地域の専門家を紹介してもらいます。プロジェクト立案（地域社会調査から進捗の測定と評価まで）の経験、また、ロータリーの6つの重点分野とロータリー補助金についての専門知識を持つ専門家に相談しましょう。国際奉仕委員長は、ロータリアン、ロータリー学友、地域社会の人たち、クラブのプロジェクトや補助金について熱心にサポートしてくれるほかの組織の専門家とあなたを引き合わせることもできます。また、援助国側パートナーを探したり、プロジェクトの改善に役立つ出版物やオンラインツールを見つめたりする際にも、きっと力になれるはずです。

地域調査の実施

「途上地域に行くと、どのような援助も受け入れてくれます。どんなプロジェクトも拒否はしません。だからといって、自分が憶測するニーズと地域のニーズが一致しているとは限りません」— ホンジュラス、イスラス・デ・ラ・バイア県ロアタン島ロータリークラブ会長、マイク・ウィッティ氏

カナダのアルバータ州エドモントンを含む第5370地区は、ベリーズにおける遊び場プロジェクトを完了し、その取り組みをホンジュラスにも広げることになりました。ロアタン島のロータリークラブが、地元住民が2つある公園のうちの1つに応募するよう後押ししたからです。

ロアタン島から船で45分のところにあるサンタ・ヘレネの村は衛生状態が悪く、経済も低迷し、健康上の問題が蔓延していました。村には水も電気もなく、学校には本や教材もありませんでした。それでも村の人たちは遊び場を求め、寄贈できる土地もありました。

カナダから出向いたロータリアンは、遊び場を作ろうとサンタ・ヘレネで2週間ほど過ごしました。作業開始から間もなく、地元のロータリーと提携する住民に地域調査をしてもらい、村の優先事項を学ぶことにしました。

当時のロアタン島のロータリークラブの会長であったウィッティ氏とクラブ会員はフォーラム（住民会合）を開きました。参加者は多かったものの、村の評議員からの発言が支配的でした。一般住民は、子どものいる人も高齢者も、後ろの席に座りうなずくだけでした。そこでクラブは、地域社会のリーダーを除いた小規模な座談会を開きました。村の評議員と同じ懸念を持つ人もいましたが、ほかの問題も提起されました。自分たちの苦勞、そして自分や子どもたちにチャンスがないことを、率直に語ってくれました。

住民を理解するためクラブはマッピング調査も行いました。参加者は村のマップを作り、自分たちにとって重要な場所を指し示しました。子どものいる人にとっては学校が重要な場となり、ほぼ全員にとって診療場が重要だという結果でした。この調査により、村に既にあるものとならないものについて話し合われ、何が必要とされているのかを特定できました。今後の奉仕の方向性についても明確になりました。現在、ロータリアンはサンタ・ヘレネ島で水と衛生に関する総合的なプロジェクトを手がけています。

フォーラム (住民会合)

フォーラムは、公式または非公式なかたちで住民や関係者が集まり、地域社会の懸念、課題、優先事項について自由に意見を交わすことのできる方法です。

参加者は、司会者による進行のもと、地元地域の強みや改善点について意見を出し合います。

地元で信望の厚いリーダーや市民団体の代表者に司会や進行をお願いするとよいでしょう。

事前にフォーラムの目標を明確に決め、資料を進行役に渡します。

この調査方法のメリット

- さまざまなグループに属する人の意見を集められる
- 参加者同士の意見交換を通じて、新たなアイデアを発見できる
- 大人数で行うことができる
- 地元で信望の厚いリーダーをプロジェクトに含めるきっかけとなる
- さまざまな課題や問題について理解を深めることができる
- さまざまな解決案を模索できる

この調査方法のデメリット

- 参加者が互いに遠慮せずに意見を述べられるようにする工夫が必要
- 主題から話が逸れないよう注意が必要
- 男女の割合、参加者間の力関係、地元の慣わしや伝統などが結果を左右する可能性がある
- 一部の参加者のみが発言し、ほかの人の意見が十分に聞けない可能性がある

フォーラムのヒント

- **明確な目的を定める**：どのような情報を集めたいのか、どのような課題をより深く探りたいのかを明確にしておきます。目標を定めたら、十分な情報が得られるよう入念に質問を準備します。複雑な質問は避けましょう。
- **参加者に都合のよい場所と時間を選び、適切な方法で告知する**：参加者が容易に集まれる場所を選び、都合のよい日時を調べましょう。
- **地域全体にフォーラムの開催を告知する**：開催の告知を行う際は、地域で最も頻繁に利用されている情報源（ちらし、ラジオ、学校や公共施設など）を選び、分かりやすい言葉で情報を伝えましょう。
- **質問を用意しておく**：質問内容は簡潔で分かりやすくします。新しい悩みや、同じ問題が繰り返し提起される場合は、質問を投げかけ詳しく話を聞きます。
- **スケジュールに沿って進行する**：各質問に費やす時間を決めておき、配分時間に沿って話し合いを進めるようにします。
- **基本的なルールを決めておく**：話し合いのルールを参加者に伝えることによって、一部の人だけでなくできるだけ多くの人が発言できるようにします。主題から逸れることを防ぎ、発言に消極的な人の参加を促すのに効果的な方法です。
- **メモを取る**：発言内容の要点をホワイトボードに書きとめ、全員が見られるようにすると効果的です。1～2人に記録係として協力してもらうこともできるでしょう。
- **真摯に耳を傾ける**：参加者の話によく意味を傾け、すべての意見が貴重であるという印象を与えることが大切です。参加者の時間を尊重しましょう。

- **参加者に説明を求める**：よく分からない意見が出た場合は、質問をして詳しく聞き取ります。
- **少人数での話し合いも盛り込む**：参加者の発言機会を増やすために、少人数のグループに分けることもできます。各グループに書記を置き、話し合った内容を最後に全員に向けて発表してもらいます。この方法は、発言に消極的な人の参加を促す効果的な方法です（例：女性、若い人、障害者、外国籍の人だけのグループなど）。

困ったときの対処法

- 一部の参加者のみが発言している場合は、進行役がほかの参加者からの発言を促すこともできます。
- 話題が逸れた場合は、主題をもう一度説明します。参加者に疲れが見られたり、ある話題が長引いたりしている場合には、5分ほどの休憩をとると効果的です。
- 抑揚のある話し方や、身振り手振りの工夫も大切です。例として、身を乗り出すようにして話を聞くことで自分の関心を相手に示し、部屋全体を見渡すようにして多くの参加者からの発言を促すことができます。
- 発言があまり出ない場合は、少人数のグループに分かれて話し合ってもらうのも一案です。参加者同士の関係に配慮し、意見から生じる感情（怒り、動揺、苦痛、自己防衛など）に注意してください。進行役は、最初に話し合いのルールを説明し、他人を責めたり当惑させたりするような発言をしないようお願いしておく必要があります。感情を害した人がいる場合は、誤解を解いたり、発言内容を言い換えたりして、その場の雰囲気が悪くならないよう気を配りましょう。
- 話題が逸れてしまった場合は話し合いの要点をまとめ、ほかに意見がないか参加者に問いかけます。

話し合いの終了後

- 話し合いで得られた重要な情報をまとめ、参加者に感謝します。
- その後の行動計画を立てます。
- プロジェクトの案がまとまったら、主要な関係者と連絡を取り、具体的な計画を立てます。

地域リソース調査

地域リソース調査は、奉仕プロジェクトで活用できる地域社会のリソースを把握するための調査で、店主が商品の在庫を調べるように、地域リソースのリストを作成します。リソースには、人、施設、機関、行政サービス、行事など、さまざまな種類があります。調査では、協力が得られる人びとや利用できる場所など、奉仕プロジェクトに役立ちそうな地域社会のリソースを検討し、各リソースについて調べて最終的に利用するリソースを決めます。その後、各リソースについてよく知る関係者と連絡を取り、具体的な活用方法を検討します。

この調査方法のメリット

- 地域で得られるリソースを最大活用できる
- 調査を通じて地域リソースのネットワークを作ることができる
- 地元の人びとの関心分野を知るのに役立つ
- 包括的に地域リソースを調査すれば、将来のプロジェクトにも活用できる

この調査方法のデメリット

- 分析に時間がかかる
- リソースを管理し、各リソースの関係者を探すことは簡単ではない
- 関心やスキルといった非物質的なリソースを見落としやすい

地域リソース調査のヒント

- 必要となるリソースの種類を決めてから調査メンバーを選ぶ。
- 地域社会の多様なメンバーに協力してもらう。
- 効率的に情報を集めるために、メンバーの役割分担を調整するリーダーを決める。
- 集まった情報を分析し、リソースを種類別に分けて資料にまとめる。
- 利用可能なリソースをプロジェクトに効果的に活かす方法を考える。
- 定期的に地域のリソースを再調査する。

調査で問うこと／地域関係者に尋ねること

- ▶ 地元地域の独自性や特徴は何か
- ▶ 地元地域では何が生産されているか
- ▶ どのようなイベントや催しが行われているか
- ▶ 住民が集まる機会にはどのようなものがあるか（ボランティア、スポーツ、娯楽など）
- ▶ 誰に協力してもらえるか。それはどのようなスキル、知識、リソースを持つ人びとか
- ▶ 地元住民は、起業や文化的催しに関心を持っているか
- ▶ 住民の関心を引く話題や問題は何か
- ▶ 地元にはどのような民間団体、行政機関、企業があるか
- ▶ 地域社会のリーダー、または住民からの信望の厚い人は誰か
- ▶ 住民間の情報伝達はどのように行われているか
- ▶ どのような行政サービスやボランティア活動が実施されているか
- ▶ 天然資源や広大なスペースはあるか
- ▶ 次世代に伝えるべき知識、伝統、スキルにはどのようなものがあるか
- ▶ 地域でどのような商業が発展しているか
- ▶ 大々的なもの、草の根的なものを含め、地元ではどのような奉仕活動が行われているか
- ▶ 地域社会の連帯はどのくらい強く、どのように形成されているか
- ▶ 地元にはどのような公益事業やサービスがあるか
- ▶ ものとサービスの支払いにはどのような方法が使われているか
- ▶ 統治機関はサービスの管理をするなどの機能を果たしているか

その他の方法

- 性別、年齢、職業などの下位分類に分けて調査することで、地域社会に対する意見の違いを把握できます。
- 地域に存在するすべてのリソースを把握することは難しいため、教育や保健といった地域の特定の分野に絞ってリソースを調べることもできます。
- 実際に地域内を歩いたり、車で回ったりすることで、新しいリソースが発見できるかもしれません。

アンケート調査

アンケート調査は、地域社会の強み、改善点、ニーズ、リソースに対する地元の人びとの全般的考えを把握するのに効果的で、最もよく用いられている方法です。幅広い対象者、あるいは特定グループに的を絞って、Eメール、電話、対面で実施できます。

この調査方法のメリット

- 現地に行かなくても実施できる
- 繰り返して実施できる
- 匿名で行われるため、率直な意見を集められる
- 低コストで実施できる

この調査方法のデメリット

- 通常、回答者を特定できず、その連絡先を知ることができない
- Eメールによる調査は、当該地域でインターネットが普及している場合のみ可能
- 電話による調査では、回答者または調査員の先入観が影響する場がある
- Eメールや電話による調査は、一般的に回答率が低い
- 記入式の調査は、識字率が低い地域では不向き
- 匿名で行われるため、フォローアップの情報収集は不可能

質問の種類

- **選択肢式の質問**: 複数の選択肢から該当する項目 (1つまたは複数) を選ぶもので、選択肢項目が限定できるときに有効です。

例:

地元地域で最も改善が必要なことを2つ、以下からお選びください。

- 医療
- 教育の質
- 雇用機会
- 治安
- その他 (具体的に記入のこと) _____

- **考えを尋ねる質問:** 回答者は、各項目に対する自分の考えを選びます。混乱を避けるため、項目は否定的な言い方ではなく、肯定文にします。たとえば、「教師の数が十分ではない」という言い方ではなく、「教師の数は十分である」とします。

例:

あなたの学校について、あなたの考えに最も当てはまるものをお選びください。

	1 そう 思わ ない	2 どちらかとい えばそう思わ ない	3 どちらとも 言えない	4 どちらかとい えばそう 思う	5 そう 思う
教師の数は十分である					
教師は十分な資質を備えている					
学校は子どもの安全に配慮している					
学校の設備は十分に整っている					
私は子どもの学習カリキュラムをよく知っている					
私は通常、子どもの宿題を手伝っている					
学校給食の献立は適切である					

- **自由回答式の質問:** 自由にコメントや意見を記入する形式で、回答者の考えや感情を理解するのに適しています。ただし、数字で集計できないため、個別の分析が必要となります。

例:

地域社会で1つ改善できることがあるとすれば、それは何だと思えますか。また、その理由をご説明ください。

- **統計的情報を集める質問:** 性別、学歴、収入など、回答の背景情報となる回答者の統計的情報を集め、大人数のグループにおける傾向を明らかにするための質問です。

例:

あなたの年齢は、以下のどれに当てはまりますか。

- 18～24歳
- 25～34歳
- 35～44歳
- 45～54歳
- 55～64歳
- 65歳以上

アンケート調査作成のヒント

- **調査の重要性を説明する**:回答者は、自分の回答が新しいプロジェクトの開始といった大きな結果を生み出す可能性があることを理解すれば、調査に積極的に協力してくれるでしょう。
- **アンケート調査は短く、シンプルに**:調査が長すぎると記入が面倒になって回答内容が単純になり、途中でやめてしまう場合もあるでしょう。簡潔で具体的な質問を用意してください。
- **誘導的な質問はしない**:たとえば、「空き地を遊び場にしておくよりも、図書館を建てた方が有効だと思いませんか?」と尋ねると、相手に先入観を与え、同意を促すことになりかねません。代わりに、「空き地をどのように利用したいと思いますか。(A) 図書館 (B) 遊び場 (C) その他 (ご記入ください)」のように、中立的な観点から尋ねるべきです。
- **本番前に模擬調査を行う**:用意した質問で必要とする情報が得られるかどうかを確かめるために、本番前に模擬調査を行い、必要に応じて修正を加えるようにします。

インタビュー調査

インタビュー調査は、進行役（質問者）と地域社会関係者（回答者）による1対1の話し合い形式で行います。アンケート調査と異なり、インタビュー調査は回答者の考えや意見を深く知ることができ、話の流れに合わせて質問を変えたり、詳細を尋ねたりできます。また、地域社会での討論やフォーカスグループなどのグループ調査と違って、第三者に意見を聞かれることがないため、回答者は自由に意見を述べやすくなります。

インタビュー調査のメリット

- 進行役は話の流れによって柔軟に質問を変えることができる
- 回答者は他人への気兼ねなく自由に意見を述べられる
- 回答者から質的データを得るための最も正確で完全な方法である
- 文字が読めない人でも回答できる

インタビュー調査のデメリット

- 時間がかかる
- 回答者に一人ずつ対応する必要がある
- 効果的に質問するには、十分な練習とスキルを要する
- 回答者と事前にアポを取る必要がある（事前に電話インタビューを設定しておくとい）

インタビュー調査の作成・実施のヒント

- **明確な目的を定める**：インタビュー調査でどのような情報を集めるのか、どのような課題をより深く探るのか、理解を深めようとしている特定の問題が地域社会にあるのかを明確にしておきます。複雑な質問は避けましょう。
- **ターゲットとなる回答者を定める**：誰の意見を聞くのかを明確にします。適格な回答者を特定してアポを取りましょう。目的によっては、公共の場所で回答者を無作為に選ぶ必要もあります。
- **質問を準備する**：質問はできるだけシンプルで簡潔にし、難しい言葉は避けます。複雑な質問が含まれる場合は、回答が容易なものから順に尋ねるようにします。デリケートな質問を含む場合は、必ず個室で行ってください。常に一般的に理解される言葉を選びましょう。
- **練習する**：本番の前に、同僚や友人を相手に模擬インタビューを行い、感想を尋ねてみるとよいでしょう。

- **親近感を与える**：回答者が安心して話せるような雰囲気を作ってから質問を始めましょう。
- **くだけた会話のような雰囲気を作る**：質問内容を記憶し、話の流れに応じて質問の順序を変えたり、詳細を尋ねたりしながら、柔軟に質問しましょう。
- **正確にメモを取る**：インタビューを録音する場合は、事前に回答者の同意を得ましょう。
- **真摯に耳を傾ける**：関心を持ち、積極的な態度で回答者の話に耳を傾けます。相手に時間を割いてもらっていることを忘れないようにしましょう。最初のインタビューで好印象を持ってもらえると、その後も長きにわたり奉仕で協力が得やすくなる可能性があります。
- **具体的な回答を求める**：はい/いいえで答えられる質問だけでは十分な情報は得られません。具体的な意見を聞き出すことを心がけ、回答が曖昧また不明瞭である場合は、回答者に補足の説明をしてもらいます。より具体的な答えを得るための質問も用意しておきましょう。
質問例：地域社会では、どのくらい医療が受けやすいですか。
より具体的な答えを得るための質問例：
 - 病院には簡単に行けますか。病院で簡単に医療を受けられますか。
 - 健康診断を受けるために病院に行きますか。それとも、急病の場合にのみ行きますか。
 - 今までの医療費は手頃でしたか。医療を受けるために保険に加入する必要がありますか。
 - 保険に未加入の人はどうなりますか。そのような人はどこで医療を受けますか。
 - 医療費を払えないため医療を受けなかったことがありますか。あるいは、そのような人をご存知ですか。
- **フォローアップへの協力について確認する**：調査後のプロセス（今後の調査や地域の改善活動）で再び協力してもらえるかどうかを回答者に尋ねます。必要な場合、引き続き協力してもらえるようお願いしましょう。

フォーカスグループ （座談会）

フォーカスグループは、進行役の綿密な進行の下で参加者が話し合いを行い、特定の主題についてターゲットグループの意見を知るための手法です。地域社会のニーズについて、関係者の見解を知るのに役立ちます。

この方法では、入念な準備と経験豊かな進行役が求められます。通常、6～12人のグループで話し合いを行います。進行役は事前に用意した自由回答式の質問を参加者に問いかけ、地域社会のさまざまなニーズについて意見を聞き出します。これは参加者の率直な意見を促す手法です。

グループでの話し合いでは、話が逸れることもよくあります。また、参加者の意見や態度が、ほかの参加者の反応によって左右されることもあるでしょう。フォーカスグループを成功させるためには、議論を行うというよりも、参加者同士の活発な意見交換が行われるように促すことが重要です。このため、周囲を気にせずに落ち着いて話し合える環境が必要となります。また、進行役のほかに記録係を決めておきましょう。

多様なメンバーで話し合うのが理想的ですが、地域社会の構造や文化的な違いへの配慮も大切です。地域によっては、男性の進行役や参加者の前では率直に発言しにくいと感じる女性もいるでしょう。同じように、大人を前に意見を控える若者もいるかもしれません。このため、職業、年齢、性別、家族構成などを考慮し、必要であれば複数のフォーカスグループを開くのが効果的です。

フォーカスグループのメリット

- 比較的簡単に行うことができる
- 参加者同士の意見交換により、個別に話を聞く場合よりも掘り下げた意見を得ることができる
- 具体的な考えや感情といった、数では把握できないデータを収集できる
- 文字が読めない人でも回答できる

フォーカスグループのデメリット

- 進行役の考えや先入観に影響される場合がある
- 一部の参加者ばかりが発言したり、話し合いの内容が本題から逸れたりする場合がある
- データの分析に時間がかかる
- 得られる情報はグループの話し合いによる結果であり、個々の参加者の持つ考えではない。
- 少人数の話し合いでは地域全体の意見を反映できず、場合によっては異なるメンバーでの話し合いを複数回実施する必要がある

質問の準備

最初に話し合う主題を決めます。たとえば、クラブが考える地域社会のニーズ、プロジェクトのアイデア、地域社会のリソースについてどう思うかなどが主題となります。次に、主題に関する話し合いを導くための質問を準備します。積極的な発言を促すため、異なる種類の質問を使い分けましょう。以下は、学校教育の改善に関する話し合いを想定した質問の例です。

- ▶ **話し合いに入る前の質問:**参加者が雰囲気に慣れて安心して話ができるように、簡単な質問をします。
 - 学校には何年お勤めですか。
 - 何の教科を教えていますか/授業以外にどのようなことを担当していますか。
- ▶ **導入の質問:**主題に的を絞った話し合いを始める足がかりとなる質問をします。
 - 学校で3つのことを変えられたとしたら、何を变えたいと思いますか。その理由も説明してください。
- ▶ **掘り下げた質問:**さらに掘り下げた意見を聞き出すための質問です。
 - なぜ半数の女子生徒が、2年生を終えたあとに学校に来なくなるのでしょうか。
- ▶ **鍵となる質問:**最も意見を聞きたいポイントを示し、重要な話し合いを始めるための質問です。
 - 女子生徒が学校に復帰できるよう、学校側としてどのような支援や配慮が必要でしょうか。
 - 女子生徒が学校に復帰できるようにするために、家族はどのような支援を必要としているでしょうか。
- ▶ **まとめの質問:**話し合いをまとめ、最後に意見を聞き出すための質問です。
 - 女子生徒が学校に来られなくなった理由を知るために、事情を聞くことができる保護者の方をご存知でしたら教えてください。
 - 子どもを学校に復帰させたくても、そうすることができない保護者の方をご存知ですか。

フォーカスグループ実施のヒント

- 参加者に都合のよい日時と場所を選び、少人数グループでの話し合いに適した個室を用意します。
- 地域の人に進行役をお願いする場合は、事前に進行方法を説明します。
- 進行役以外に話し合いの記録を取る（メモまたは録音）記録係を決めます。メモを取る場合は、参加者にメモの内容が見えるようにし、その内容が正しいかどうかを定期的に確認しましょう。
- フォーカスグループには、ロータリー地域社会共同隊（RCC）の会員にも参加してもらいます。
- 参加者は6～12人が好ましく、話し合いへの参加に関心がある地域社会の関係者を選ぶ必要があります。
- フォーカスグループの目的と集めたい情報を参加者に明確に伝えましょう。参加者が積極的に、安心して発言できるように話し合いの基本的ルールを決めておきます。
- 主題を説明し、事前に準備した質問で話し合いを進めます。質問ごとに配分時間（10～15分）をあらかじめ決めておきます。
- 参加者全員が発言できるように気を配りましょう。また、細部に注意して意見を聞き取り、不明瞭な点があれば補足の説明をしてもらいます。この際、発言に反対しているような言い回しは避けましょう。
- 参加者同士が自由に話し合えるよう配慮します。ただし、主題から逸れないように注意する必要があります。

その他の方法

- クラブ会員と地域社会の関係者で意見や考えがどのように異なるかを知るために、それぞれのグループで同じ主題のフォーカスグループを実施してみるのも一案です。今までは考えてもみなかった観点が明らかになるかもしれません。
- 性別、年齢、学歴などの下位分類ごとに分けてフォーカスグループを実施する方法もあります。

話し合いの終了後

フォーカスグループの終了時には、参加者に調査に協力してくれたことへの感謝を伝えます。参加者との連絡を維持し、どのようにフォローアップの連絡を取るかを決めておきましょう。プロジェクトの詳細が決まったら、その内容を参加者に伝え、何らかの方法でプロジェクトへの協力をお願いすることもできます。

マッピング調査

マッピング調査は、地域社会についてのさまざまな特徴を明らかにする調査です。この方法は少人数で時間をかけずに行うことができ、さまざまな年齢層や学歴の人に参加してもらうことができます。

参加者は単独またはグループで地域社会の地図を描き、重要な地点に印を付け、どのくらいの頻度でそれらの場所を訪れるかを記します。進行役は作成された地図を基に話し合いを進め、記録係がその内容を記録します。マッピング調査のできること：

- 参加者が地域社会のリソースをどのように利用しているか、利用するための障害となっているものは何なのかを特定する
- 地域のさまざまなリソースについて、その重要度を参加者同士で話し合う
- 地域社会の改善につながるアイデアを出す

マッピング調査のメリット

- 参加者の活発な話し合いが期待できる
- 地域社会の改善について参加者の議論を促進できる
- 地域住民の特定グループごとに複数回実施できる

マッピング調査のデメリット

- 言葉ではなく視覚的に情報が示されるため、結果の分析が難しい場合がある
- 地図からのみでは結論を導き出せず、次のステップの決定に至らない場合、追加調査が必要となる

マッピング調査のヒント

- グループは少人数とします。参加者は全体で20名までとし、4～6名の下位グループに分けて以下のことを行います。
- 各下位グループに、地域社会に関する自分たちの認識を基に地図を描いてもらいます。グループごとに地図が描かれるため、多くの情報が生み出されます。
- 全体で次のことについて話し合います。
 - 下位グループごとの地図を比較し、どのような違いがあるか
 - それらの違いが重要な意味を持つ可能性があるのはなぜか
 - 地図の共通点は何か
 - 共通点から分かる重要ポイントは何か
 - どのような新しい施設が地域社会に必要とされるか新しい施設は、地域社会にどのような変化をもたらすか
 - 作成された地図には、どのような地域社会の改善点や改善策が示されているか
- 作成された地図をさらに分析し、その後の実行項目を決める委員会を設置し、参加者からボランティアを募ります。

地図に含めるもの

- ▶ 参加者の居住地
- ▶ 重要な場所 (学校、公民館、公園、職場、空き地、水源、役場、病院、警察署、娯楽施設、市場、宗教施設など)
- ▶ 公衆トイレ (特に公共施設内)、繁華街、水源
- ▶ 多くの時間を過ごす場所 (日・週・月・年ごとの訪問頻度によって色分け)
- ▶ 好きな場所／嫌いな場所 (色分け)
- ▶ 追加したい施設や場所 (付箋紙や紙片を貼り付けて表示)

その他の方法

- 性別、年齢、職業などの下位グループに分けて地図を作ると、多種多様な地図が生み出されます。
- 地図作成の前に、全員で地域内を歩いて地図の構想を練ることもできます。
- 参加者に地区の中心地を特定してもらい、すべてのグループの地図が同じ向きになるようにするとよいでしょう。

プロジェクトに含めるべき関係者 (重点分野別)

平和と紛争予防／紛争解決

- 暴力の被害者、難民、避難民
- 暴力の加害者
- 対立グループ
- 市民団体
- 学校、教育機関
- 役所、警察

トラウマとなる出来事の被害者や対立のある地域など、デリケートな問題を抱えるグループを調査する場合、状況を理解している個人または組織と直接やり取りすることがきわめて重要です。そうすることで、適切な調査を行って最良の結果を得ることができるでしょう。

水と衛生

- 地域社会のリーダー（特に女性）
- 水、衛生、環境関連の政府機関
- 教育関連の政府機関／教師、生徒、校長、PTA
- 保健関連の政府機関
- 地域／地方自治体の代表者
- 公益事業を行う民間企業
- 施工業者（ハンドポンプの作業員、地域のアウトリーチワーカーなど）
- 農家（灌漑）
- アドボカシー活動団体
- 地域の関連組織

基本的教育と識字率向上

- 教師
- 保護者
- 生徒
- 不登校児
- 学校運営者
- 教育委員会
- 教育関連の政府機関
- 成人学習機関
- 職業訓練施設
- 大学／専門学校
- 図書館／司書

疾病予防と治療／母子の健康

- 医療利用者
 - 妊婦
 - 健康リスクのある子ども
 - 疾病リスクの高い成人（非伝染性／伝染性）
 - 高齢者
- 医療センター、病院
- 可動式クリニック
- 社会福祉員
- 助産師
- 医療従事者（看護師、医師、その他専門家）
- 周辺サポートの提供者
 - 予防医療、プライマリーケア、医師照会
 - 交通機関
 - 病院
 - 治療後のケア、リハビリ
 - 長期療養、末期治療、ホスピス

経済と地域社会の発展

- 地方自治体
- 女性グループ
- 政府による推進事業
- ジョブリサーチセンター
- 企業家
- 貿易、農業、社会事業、女性の社会進出、職業奉仕関連の政府機関
- 農家
- 失業者
- 雇用主
- 銀行
- 協同組合（農業、融資など）
- 小口融資機関
- 職業訓練施設
- 小学校／中学校／高等学校
- 大学
- 成人学習機関